

日本産アカネズミ *Apodemus speciosus* の分布境界について—予報—

原田正史 (大阪市大・医・実験動物), 浜田 俊 (沼津学園高校), 子安和弘, 宮尾嶽雄 (愛知学院大・歯・解剖)

Studies on a contact zone between two chromosomal races of *Apodemus speciosus*

MASASHI HARADA, SATOSHI HAMADA, KAZUHIRO KOYASU, TAKEO MIYAO

日本産アカネズミ *Apodemus speciosus* は本州中部を境にして染色体数が西は $2n=46$, 東は $2n=48$ のアロパトリックな分布を示す。この境界は富山・浜松を結ぶ所にあり, その境界部においては $2n=47$ の交雑個体がみられることが土屋 (1974) によって明らかにされている。しかし境界部の詳細な調査はおこなわれていない。今回, われわれは境界附近の約50地点から285頭のアカネズミを採集し, 染色体を分析した。その結果, 木曽谷では上松, 奈良井, 伊那谷では駒ヶ根, 伊那地区, 松本西部および天竜川ぞいの豊岡村, 竜山村, 森町など13地点において $2n=47$ の井雑個体がみれた。両グループ混雑地点14ヶ所のうち13ヶ所で交雑が確認されたことから両グループは自然状態で自由に交配していることが示唆された。これは土屋 (1974) の自然状態では, 両グループは, ほとんど交配がおこなわれえないとする見解と異なった。

ユミヒゲザトウムシ種群 (*s. str.*) における地理的変異と種分化

鶴崎展巨 (北大・理・動物)

Geographic variation and speciation of the *Leiobunum curvipalpe* group (*s. str.*) (Arachnida, Opiliones)

NOBUO TSURUSAKI

長野県東部から北関東にかけて分布するユミヒゲザトウムシ *Leiobunum curvipalpe* と, その東北地方における vicariant である *L. tohokuense* の地理的変異を44地点から集めた多数の標本をもとに再検討したところ, 8の触肢や生殖器などの形態やサイズの相違により本群は少なくとも6つの地理 form (両種ともに3型ずつ) に分割されることがわかった。核型も調査した4型 (*tohokuense* 3つと *curvipalpe* 1つ) に関する限り, すべて異なっていた。このうち *L. tohokuense* では染色体数が $2n=20, 22, 24$ と変化しているが, 各染色体は一様に meta-あるいは submetacentric であり, 本群の核型変異は単純な Robertson 型のものではないと思われる。各 form 間も移行は相当狭い幅で急激に起こるようであり, またその境界は現在の地形や気候区のそれにとくに対応してはいない。以上から本群の種分化においては染色体再配列が一義的な役割を果たしていると考えられる。

淡水棲プラナリア, カズメウズムシ *Polycelis auriculata* の染色体多型

手代木渉, 新村文男*, 石田幸子 (弘前大・理・生物, *長野県屋代高校)

Chromosomal polymorphisms of a Japanese freshwater planarian, *Polycelis auriculata*

WATARU TESHIROGI, FUMIO NIIMURA, SACHIKO ISHIDA

本種の染色体数は, 基本的には $2n=6$ と思われるが, 生息地により著しい染色体多型を示すことが最近発見された (新村, 1978, 1979; 手代木・他, 1981; Teshirogi・Ishida, 1981)。その後, 長野県東北部から日光にかけて, これまでと異なるいくつかの核型をみつけたので, 既報の核型をも含めて本種の変異核型の道筋について考察した。今回, 新しく見つけた核型は, 東北地方に広く分布している $4n?=4SM+2A+2T_1+4M=12$ からの派生型と考えられる次の3種である。1) $4n? \text{ fis}^2=2SM+2A+4T_1+2T_2+4M=14$. 2) $4n? \text{ fis}^2+1=2SM+2A+4T_1+2T_2+5M=15$. 3) $4n? \text{ fis}^2 \cdot T_2^-=2SM+2A+4T_1+4M=12$. (SM; submetacentric. A; acrocentric. M; metacentric. T_1 ; telocentric. T_2 ; telocentric, $r=\infty$. fis^2 ; centric fission が2回. T_2^- ; T_2 が欠失) なお, 今回も北海道の各地, 6か所について調査したが, すべて $2n=6$ であった。